

里地里山保全・再生の特徴的取組 個票 A (対象地域の概況)

No.111		三富新田 (さんとめしんでん)	生物地理区分		コナラ林(東日本)	
			地域区分		大都市近郊	
所在地	都道府県	埼玉県	地形条件	1.山地	2.山麓部	○ 3.丘陵・台地
				4.低地	5.その他	
	市 町 村	所沢市、三芳町	環境要素	○ 1.二次林	2.草地	3.水田
				○ 4.畑	5.小川・水路	6.ため池
	集落名称等	上富・中富・下富		7.池沼・湿地	8.社寺林	○ 9.人工林
			○ 10.その他(屋敷林)			

環境要素(対象とする地域に含まれる環境要素)

◎:面積割合が最大のもの ○:それ以外の環境要素

自然環境・景観保全、国土保全関連の法指定状況	自然環境、景観、文化等の観点からの選定・評価
	「にほんの里 100 選」(H21) その他の選定等(国指定史跡(S4～S37)、埼玉県指定旧跡(S37))
特徴的な動植物や生息環境	対象地の景観の現状
里山環境:キキョウ、コナラ・クヌギ林、オオタカ、コゲラ	景観関連調査(文化的景観等)の対象地となっている ⇒三富新田は、関東平野に展開する江戸時代の開拓地割遺跡。柳沢吉保を領主とする川越藩によって江戸時代中期に開拓され、開拓当初の形態を現代に伝えており、武蔵野の新田開発地割景観をよく残している。



写真の説明: 武蔵野における近世開拓の景観をよく残し、三富開拓地割遺跡として埼玉県指定旧跡となっている三富新田



写真の説明: 行政や JA が主体となり、ヤマ(平地林)の歴史的意義や文化的環境を市民に理解してもらうための体験落ち葉掃き

No.111	三富新田(さんとめしんでん)	取組主体	◎	1.地域コミュニティ(集落・組合等)
都道府県	埼玉県			2.団体・企業・学校等
市町村	所沢市、三芳町			3.行政による支援施策の活用
集落名称等	上富・中富・下富			4.多様な主体が参加・連携する組織体
				5.その他

取組 主体	主な主体の名称		三富落ち葉野菜研究グループ	
	その他の主体の名称		埼玉県・三芳町・JA いるま野・JTB	
目的 ●：主 ○：その他	●	1.農林業を通じた里山や草地の利用（管理）の維持・活性化（伝統的なものも含む）		
		対象・取組内容	○モザイク的土地利用 ・元禄年間に開拓された三富新田は、屋敷地、畑地、平地林から成る短冊状の地割（一軒あたり約 5ha）が一つのまとまった単位として機能するとともに、これらの地割を整然と配した地割景観が残され、武蔵野の新田開拓の面影を今にとどめ、広範囲にわたってモザイク的な土地利用が展開されている。 ・地割が良好に維持されている三芳町上富地区一帯では、地割に沿って畑地が面的に広がり、ヤマと呼ばれる平地林には、コナラ・クヌギ・アカマツ・エゴ・ヤマザクラが植樹される。畑の境界には、耕作土の飛散防止のため五畝から一反ごとにウツギやチャノキが植えられてきた。 ○平地林の落ち葉を活用した循環型畑作農業 ・三富新田では、冬に平地林から掃き集めた落ち葉を発酵させ堆肥として利用する循環型の畑作が現在に継承されている。 ○用途に応じた樹木の植栽・育成 ・開拓当時、平地林は薪や堆肥の供給源として、屋敷林の樹木は建築材や農具材として利用されてきた。 ・三富新田では、植栽する樹種を用途に応じて選定。屋敷林では、竹やケヤキ、カシ、スギ・ヒノキなどが植えられ、防風や防火の役割を果たすとともに、生活用材や建築用材としても活用されてきた。畑地では、畑の境に防風の役割をかねてウツギやチャノキが植えられた。また平地林では、コナラやクヌギが燃料用に、アカマツは建築材として、エゴやヤマザクラは農業資材として育成され、利用されるとともに、落ち葉は堆肥として活用されてきた。	
			支援措置	
	○	3.環境教育や自然体験、エコツーリズムの場としての利用		
		自然観察会		
		環境教育・学習活動		
		里地里山体験・環境保全		
		農林業体験活動	*	○落ち葉掃き、農作業・収穫体験 ・循環型農業を核とした三富農業の振興を図るため、行政・農家・都市住民が協働し、冬場に体験落ち葉掃きのイベントを実施している。体験落ち葉掃きは、各団体や農家ごとに毎年1～3月に平地林で行われ、例年延べ2～300人の参加者があり都市住民との交流の場にもなっている。 ・落ち葉でつくった堆肥（ツクテ）で野菜を育て、収穫している。野菜は、「富の落ち葉野菜セット」として販売。
		エコツアー	*	JTB によるツアーが企画・販売されている
	連携・協働による 取組内容・役割分担等			体験落ち葉掃きについては、各農家で市民を受け入れて実施するものと、活動団体で市民を受け入れ実施するもの、行政・関係団体・各農家との協働で行うものがある。農業体験・収穫体験は、活動団体・各農家・行政がそれぞれ独自に実施している。
取組の特徴や強調したい点			・江戸時代の開拓地割跡がそのまま残され、道路側から、屋敷（屋敷林）、畑、平地林の順に細長く区画された農村集落が形成されている。生業は畑作が維持され、屋敷地、農地、平地林のモザイク的土地利用と循環型資源利用の知恵と工夫が引き継がれ今に営まれている。平地林などの管理を通じ、保全活動を呼びかけ、地域の魅力発信と循環型農業への理解を促進させている。	

取組の概要	伝統的畑作農業によるモザイク的土地利用と循環型資源利用の継承	課題グループ ●農林業 ●手法
事例の特性	モザイク的土地利用(農用林管理)	
取組の中で他の地域の参考となる点	各戸に樹林を配する地割構成のもと、若手後継者グループが落ち葉堆肥利用等の伝統技術を活かした畑作農業を維持し、江戸時代から続く農地、雑木林、屋敷地のモザイク的土地利用と循環型資源利用の手法を継承している。	